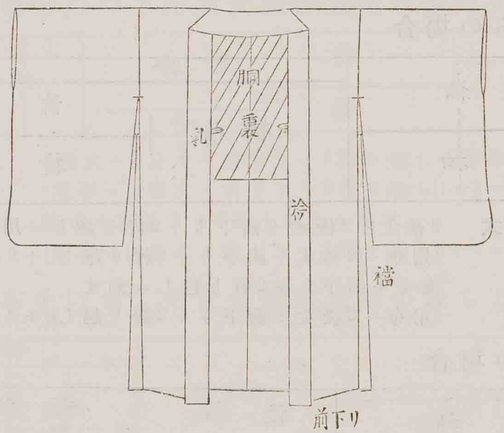
本裁ち女綿入羽織

各部の名稱　圖參照



地質

(1) 表地 {木綿　メリンス　紬　銘仙　斜子　綾絲織　縮緬
羽二重　錦紗　御召等

(2) 裏地 {木綿　(新モス,瓦斯モス)　メリンス　平絹　八つ橋
綸子　甲斐絹　繻珍等

普通仕立て上げ寸法

羽織の各部仕立て上げ寸法は,長着の寸法に據り,凡そ左の如く增減する。

袖丈同寸　袖口同寸　袖附け ·8糎—1糎 增す　袖幅 ·4糎 增す　身丈 着丈の四分の三に凡4糎增す

衿肩明き ·4糎—1糎 增す　身八つ口 ·2糎 減ず　紵同寸　後幅同寸　前下り 4糎　乳下り 背より凡そ 4 4 糎下る　襠幅 上1·5糎—2糎 下6·糎　衿幅 6糎　前幅18糎

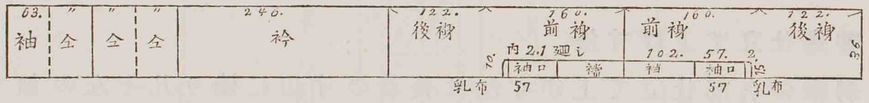
注意　身丈の長短は,時の流行と,着用者の好みとに依り,斟酌して定むべきものである。

○常幅長さ 1062糎の用布を以て本裁ち女綿入羽織表地の裁ち方及び積り方。

所要寸法　上り袖丈61糎　上り身丈102糎　繰り越し·8糎

前後の差38糎前下り40糎　衿肩明10糎

裁ち方圖



折り方圖

積り方公式　2(上り身丈＋三衿縫代＋衿肩廻し及び緩み＋2繰り越し＋前下り＋衿先縫代)＝衿用布

{用布－(4袖丈＋2前後の差＋衿用布)}÷4＝後丈

後丈＋前後の差＝前丈

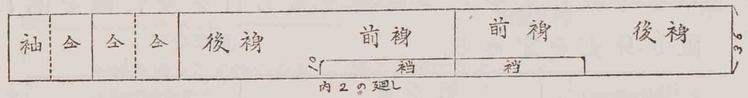
同　算　式　(102＋1＋10＋·8×2＋4＋4)×2＝246

{1062－(63×4＋38×2＋246)}÷4＝122

122＋38＝160

○常幅の布を以て,裏用布の裁ち方及び積り方。

裁ち方圖



積り方公式　8上り袖丈＋10上り身丈＋總縫代－表用布＝裏用布

同　算　式　61×8＋102×10＋107·6－1062＝553·6

總縫代	袖下縫代	2糎の8倍	16糎	三衿縫ひ代	1糎の10倍	10糎	107·6
	胴接ぎ代	2糎の8倍	16糎	衿先縫ひ代	4糎の2倍	8糎	
	前下り及び縫ひ代	5糎の4倍	20糎	衿肩廻し及び緩み	10糎の2倍	20糎	
	繰り越し	·8糎の12倍	9.6糎	衿附前下り	4糎の2倍	8糎	

注 意 (い) 胴接ぎ代を2糎と見積りたるは,最小限であるから,實際の場合には,適宜の餘裕を加へて裁つことが必要である。

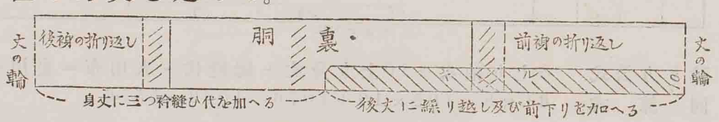
(ろ) 若し充分の餘裕ありて,胴接ぎ代として縫ひ込み置く場合には,後褄に廻し置くことが,便宜である。

標附け方

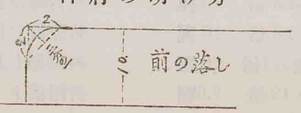
標附け方順序　1・袖　2・褄　((い)胴接ぎ及び前下り(ろ)後褄(は)前褄)　3・襠　4・衿。

(1) 袖　袖の標附け方は,裏表共本裁ち女綿入着物に同じ。

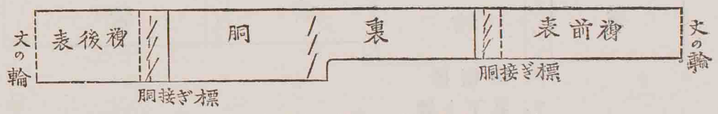
(2) 褄　布を中表に丈を二つに折り,裁ち目を左に輪を右にして置き,身丈を定める。



衿肩の明け方

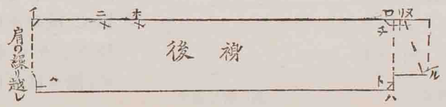


1. 後 丈　上り褄に1糎の三衿縫ひを加へたるものを後丈とし餘りは裏に折り返す。
2. 前 丈　後丈に前下りの5糎と,繰り越し・8糎の2倍とを加へたるものを,前丈とし餘りは裏に折り返す。
3. 胴裏布を,表褄の上に置き,圖の如く前後の胴接ぎと,肩山の處とに押へ縫ひを施し置く。
4. 衿肩の明け方と,前の裁ち落し方。
   衿肩明きは,圖の如く,10糎の内,8糎だけは眞直にし,次ぎに2糎の丸味を附け,夫より下前裾山迄は,10糎に通し篦をなし,4枚共に裁ち落す。
5. 胴接ぎ標



(胴接ぎ標をなす時の表布方に通らぬ様注意すること)

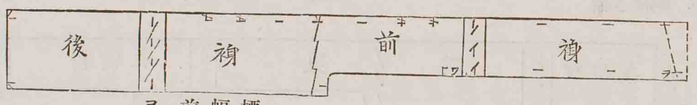
(3) 同上　肩山を繰り越し,前裾口を前下りだけ下部に出して,後褄を上に圖の如く置き標附をけする。



イ．肩山標
ロ
ハ　裾山標
ニ．袖附け標
ホ．身八つ口標
ヘ
ト　背縫標

チ，後幅標……裾口にのみなし他は背縫ひを終つて後にする。
リ．裾口後幅の所で，前褄に後丈より·2糎程長く襠丈標をする。
(襠附が斜になるから襠丈が長くなる故)
ヌ．裾口の襠丈標から更に裾口の方へ8·糎弱と標附けをす。
ル．手前の方に前下り標を4糎とする。次に(リ)(ヌ)に尺度を當てゝ，其の中間に斜の標を附ける。

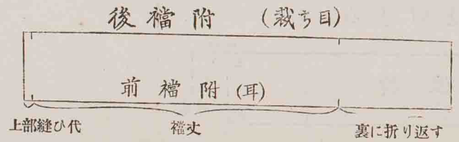
(4) 同　後褄をはぐつて，圖の如く前幅標及び乳下りの標を附ける。



ヲ．前幅標
ワ．乳下り標

(5) 襠

襠布を中表に2枚重ねて圖の如く置く



1. 上部縫代1糎
2· 襠丈，後褄裾口から身八つ口の標迄の長さより ·4糎詰めたものを襠丈と定め，餘りは裏に折り返す。

後襠附 (裁ち目)

圖の如く 裏襠を乗せ，胴接ぎの所に押へ縫ひをする。

胴接ぎ代　前襠附 (耳)

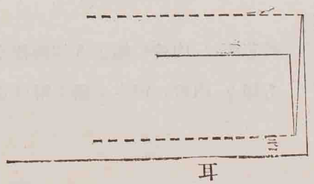
上部襠幅標　襠布幅の内，前襠附けの方を1糎取り，殘り襠幅の中央より手前に，上部襠幅の$\frac{1}{2}$，向ふに同じく$\frac{1}{2}$を取りて標を附ける。

裾口襠幅標　襠布幅の中央を取り，それより前後に，裾口襠幅の$\frac{1}{2}$づゝを取りて標を附ける。

前後共，上下襠幅標に尺度を當てゝ，圖の如く適宜斜の標を附ける。

(6) 衿

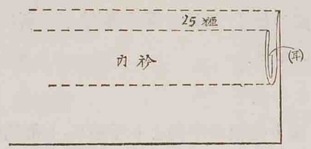
第一圖



耳

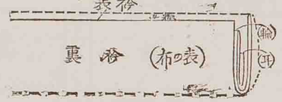
(1)最初耳の方るら衿幅の2倍に衿附け及び衿繕けの縫ひ代として2糎を加へて折る。
(2)次にその幅より2·1糎を減きて裏に折り返す。

第二圖



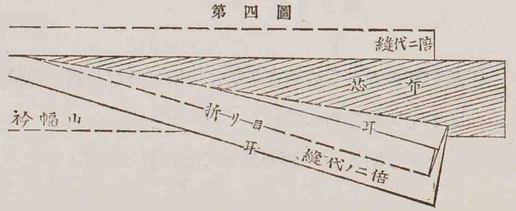
輪の方より2.5糎内の所に内衿の折り山を合せて幅を二つに折る。

第三圖



出來上り衿幅より1·1糎程廣きもの

第四圖

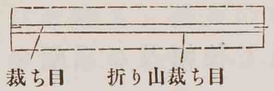


衿芯幅は，内衿の幅より.2糎狹く裁ち切り，内衿に包みて綴ぢ附ける。

(7)乳布の折り方

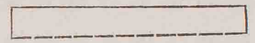
第一圖

布の中央より，·2糎程手前迄兩端を折る。



第二圖

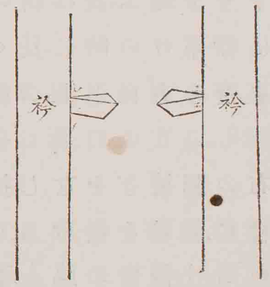
折り山と折り山とを合せて二つに折る。



第三圖

第四圖

乳の附け方(女物)



縫ひ方

(1)袖　本裁ち女綿入に同じ。

(2)袵

(イ) 前後の胴接ぎをなし,·2糎の被せを掛けて,折りは胴裏の方に返し,二目落しの躾けを掛ける。

(ロ) 背を縫ひ,折りは左袵の方に返し,後幅·及び肩幅の標を附ける。

(ハ) 前下りを縫ふ,表は斜の標通りに,裏は標より·8糎縫ひ込みて,(これは標附けの時に,長くして置いた分)前幅標の處まで縫ひ,折りは裏袵の方に返し,2糎程の針目にして隱し躾けを掛ける。

(3)襠附

(イ) 襠布の胴接ぎをなし,折りは裏布の方に返し,袵の胴接ぎの時と同樣に,躾けを掛ける。

(ロ) 後襠附け,後袵の脇と,襠の後とを合せ,襠を稍々張り目にして,待ち針をさし,襠の方を見て縫ひ,折りは,後襠の方に返す。

(ハ) 前襠附け,前袵の脇と,襠の前とを合せ,後襠附けの時と,同樣にして,釣り合ひを取り,前袵の方を見て縫ひ,折りは前袵の方に向けて附ける。

(4)身八つ口を縫ふ　裏表の袵を取り,身八つ口を合せ,襠の上部に絲留めをなし,その絲にて,身八つ口を縫ひ,本裁ち女綿入と同樣に含め綿をする。

(5)袖附け　本裁女綿入着物に同じ。

(6)綿の入れ方

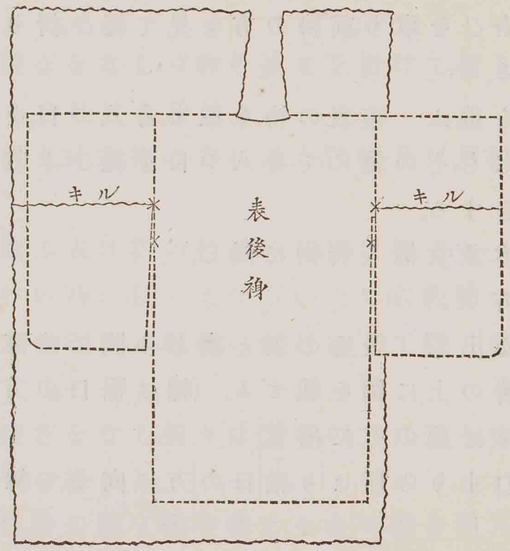
(い) 袵の裏を出し　後袵の表と裏との間に前袵を疊み込む。

(ろ) 表の後袵の上に綿を載せる。(綿は裾口の方に 8糎—12糎程殘し,殘りは肩の方に出す)

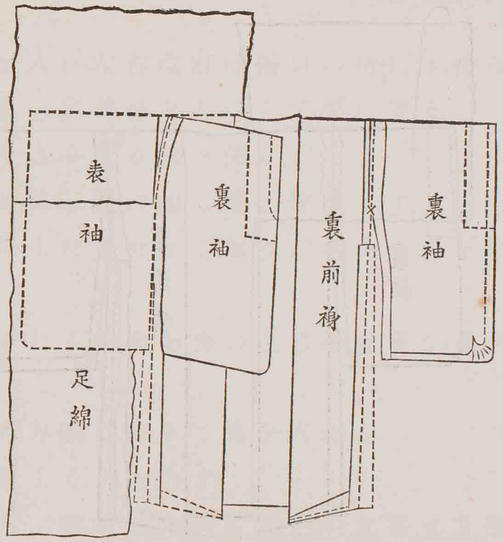
(は) 身八つ口止りの所より,袖口の方に向つて綿を切る(第一回參照)

(に) 肩山より出でたる綿を,衿肩明所にて切る(第一回參照)

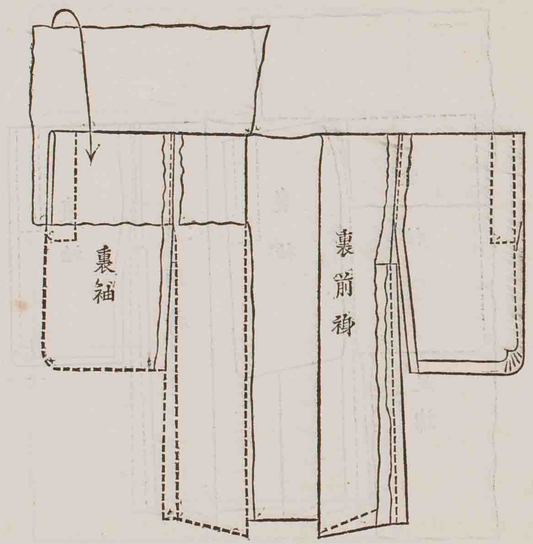
第一圖



第二圖



第　三　圖



(ほ) 裾口綿を整へ肩及び脇に出でたる綿を全部,前の方に折り込む。

(へ) 肩より手を入れ,左右襠附け裾口の所にて,綿及び縫ひ目を持ちて引き返し,裏前褄を上にして,平に置く。

(と) 肩山に折り込みたる綿を開く。

(ち) 裏袖を開き,第二圖の如く足し綿をなす。

(り) 裏袖を綿の上にのせ,足し綿及び肩山の綿を第三圖の如く折り返す。

(ぬ) 脇より出でたる綿を前褄の上に平に置き(第三圖參照)引き返する。

(る) 片褄も此の方法によりて綿を入れる。

(を) 縫ひ目を正しく引き合す。

(7)裾口の假綴ぢ　裾口にはよく綿を引き寄せて後,4・糎程上りたる所に,假綴ぢを施して置く。

(8)袖口絎け　着物の時と同様。

(9)前褄の假綴ぢ　前褄は裾口を·4糎裏にふかせて,衿を附くる所は,綿を薄くし,且紐附けから下は,衿が返つても,表褄の幅に緩みの出ない様,稍表褄を釣り加減にして,衿附けの處に,假綴ぢをする。

(10)袖口を絎ける。その仕方は,綿入の時と同様。

(11)乳附け　標に合せて,乳を縫ひ附ける。

(12)衿附け及び衿絎け　(イ) 衿の輪の方の山標を,裏の背線に合せて 1糎の縫ひ代に待ち針をする。

(ロ) 衿肩廻しより紐附けの處までは,稍衿を緩めに合せ,其の他は,衿も褄も同様にして,適宜に待ち針をする。但し,衿先は丈 8·－11·糎位の間にて,前褄を ·4糎程縫ひ込みて,衿を附ける。

(ハ) 衿を見て,左前の下から縫ひ上げ,(地厚の品は,衿先 19 糎－23 糎位の間,返し針にする)紐附けの處は,返し針に,衿肩廻しは小針

に,背線は,又一針返して,縫ひ次ぎに右前も,左前の通り待ち針をなして縫ひ下げる。

(二) 衿先の縫ひ方

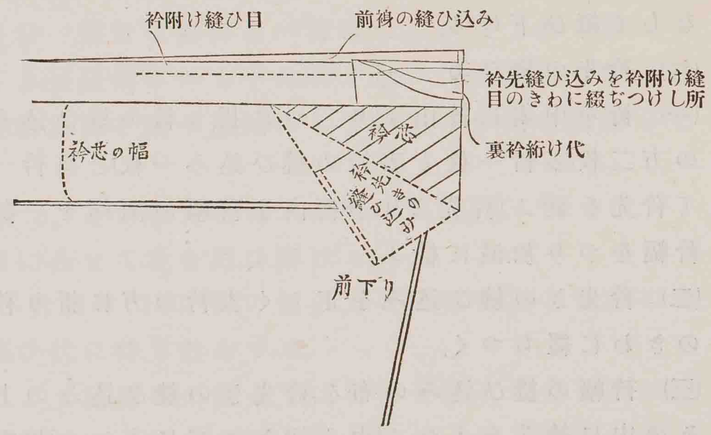
(一) 衿を中表に,衿山より二つに折り,衿の縫ひ込みを開き,表衿の方二枚(表衿一枚と表衿の縫ひ込み一枚)と裏衿一枚と三枚にて衿先を縫ふ。(衿先より, 4糎内を衿幅の兩端を一針宛殘して裏衿幅をつり加減に縫ふ)

(二) 衿先きの縫ひ込みを正しく表衿の方に折り,衿附け縫ひ目のきわに綴ぢつく。

(三) 衿幅の縫ひ込みの布を,衿先きの縫ひ込みの上に折り返しその中に衿芯を入れて(少し緩き加減に入れる)20糎おき　に綴ぢつけ表に返す。(圖參照)

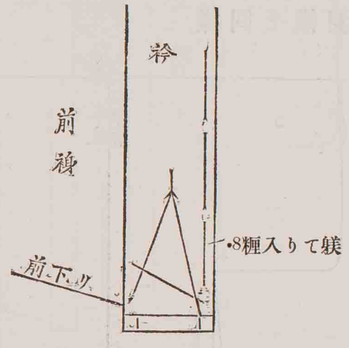
(四) 衿絎け, 18糎—1糎位の針目て衿絎けをなす(三衿の所は細か縫ひ目の見えぬやうに絎ける)

圖　參　照



(五) 衿の躾,衿附けの縫ひ目前褄に·2糎の被せをかけ衿の方を見て,衿の折り目より·8糎程入りて平躾をかける。

圖參照　但し衿先きより乳の少し上までは,褄と共にそれより上は衿のみかける。

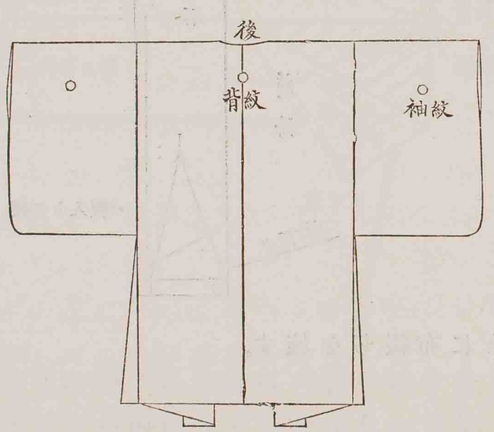


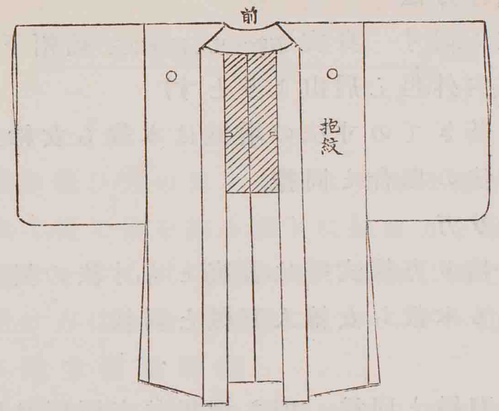
(13)背と前襠とに布綴ぢを施す。

本裁ち男綿入羽織

各部の名稱

本裁ち女綿入羽織と同樣。





地質

縮緬地及びメリンス等の如き,餘りに地質の軟いものは,男子向きとしては,不適當であるが,其の他の地質は,裏表とも,大概女物の場合と同樣である。

普通仕立て上げ寸法

袖附け　袖丈と同寸　身丈 着物の凡そ四分の三 襠幅下 8・糎　衿幅 8 糎乳下り 30 糎内外(但し肩山よりとす)

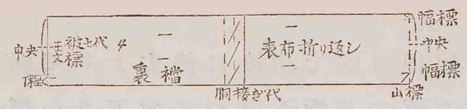
其の他,長着に基きての寸法の増減は本裁ち女綿入羽織の,普通仕立て上げ寸法の場合と同様。

裁ち方及び積り方

裁ち方・折り方・積り方算式等は,表裏とも,寸法の異なるのみて總て前章に於ける本裁ち女綿入羽織と同様。

標附け方

本裁ち女綿入羽織と同様。即ち標附け方順序は,袖・胴接ぎ・後袵前袵・衿と云ふ順序で,其の方法に於ても・袖(身八つ口を除く)・袵衿等は,全く同じことである。只襠だけは,上部を明けないから,圖の様に標附けをするが,寸法に相違がある計りで,その方法に於いては,本裁ち女綿入羽織と同じである。即ち



縫ひ方

男女綿入羽織の縫ひ方の異なる點は,男物は,袖を全部附けるから,襠丈の終りで,袵で袖を挾み,袖下に絲留めを施し,着物のやうに,裏表の袖附けをする,其の他は凡て女物に同じである。

但し,乳布の附け方は,女物と反對に,上から下へ向けて重ねる。

本裁ち男袷羽織

普通仕立て上寸法・裁ち方積り方等は,凡べて,本裁ち男綿入羽織に同じ。

標附け方

本裁ち男綿入羽織と異なる點。

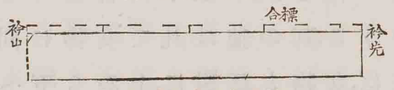
(イ) 綿入羽織は,裏袖丈を表袖丈より,・4糎短くせしが,袷羽織の

時には,·2糎詰める。

(ロ) 袵の裾口後幅標の處で,前袵に後丈より,·2糎加へて,前丈標を附け,その標から更に·6糎と計つて,前下りの標を附ける。

(ハ) 衿は綿入羽織の時と同様に,折りたる後,圖の如く衿附けの處に,19糎おき位に合標をする。

身に附く方



幅衿の山になる方

縫ひ方

(1)袖　裏袖に,袖口布を縫ひ附け,袖口明きを縫ひ合せる,その方法は,袷着物と同じである

(2)袵　(イ)胴接ぎ　綿入羽織と同様に,前後の胴接ぎをする。

(ロ)背縫ひ　裏表の背を縫ひ合せ,(裏を向うに,衿肩を右に持ちて)胴接ぎの部を能く揃へて,待ち針をなし,表を見て衿肩の方から,

四つ縫ひにし,表布の方に折りを附ける　(始め終りは,能く絲留めをなし,且つ,胴接ぎの處は,一針返して縫ふ)。

(ハ) 前下り裏を,標より,·4糎縫ひ込み,表は標通りにして,裏袵の幅を,稍々弛めに合せ,前幅標まで縫ひ裏の方に折りを返す。

(ニ) 前袵の假綴ぢ　前袵の衿附けの處を,裏表幅を揃へて假綴ぢをする,(衿を返して,表に緩みの出ない様に,注意をする事は,綿入羽織と同様)。

(ホ)乳布を附ける。綿入羽織と同様に,乳布を折り,乳下り標の所に縫ひ附けて置く

(3)衿附け

(イ)衿の附け方　衿布の表になる所,即ち折り山の所と,裏袵の表とを合せ,衿山と背縫ひとを揃へて,待ち針をなし,衿にて前袵をくるみ,衿の合標をよく合せ,綿入羽織と同様に,衿と袵との釣り合ひを取りて,待ち針をなし,三つ衿の處は,裏衿になる方を一枚

殘し,其の他は,衿の裏表にて前衿をくるみて附ける(この仕方を鐵砲附けと稱す)。

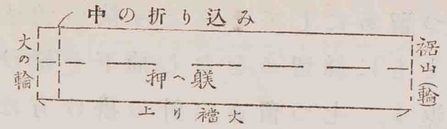
縫ひ方の注意は,綿入羽織と同樣即ち,衿先15糎より19糎程の所は,返し針に,乳布及び背にて針を返し,衿肩廻しは,小針にする。

(2)衿先の縫ひ方

(イ) 衿先は,衿の縫ひ込みの布を開きて,•4糎内を返し針にして縫ふ。(ロ)縫ひ込みは,表衿の方に返し,衿を附けたる所に,返し針にて縫ひ附けて置く。(ハ)衿幅の縫ひ込みの布を,其の上に折り返し芯を入れて綴ぢ附け,衿の縫ひ目は,手前に返す,

(ニ) 衿肩の處より衿,及び,前衿を引き返し,三衿の處を,絎け衿に躾けをかける。

(4)襠 (イ)胴接ぎをなし躾けをかけ,上部の縫ひ代を布の中に挾みて,圖の如く押へ躾けをかける。



(ロ)後襠附け 後襠を以て,後衿を挾み,綿入の時と同樣,襠布を稍釣り加減にして,釣り合ひを取り,四つ縫ひにして,折りは表布の方に返す。

(5)袖附け

(イ)表袖附け 綿入羽織と同樣。只袖下は始め終りとも,袖附け標よりも,•2糎程手前までにて絲留めをする。(注意)絲留めをする時,袖布の方は,衿よりも,稍く緩め目に,布を抄ふ方が,出來上りの手際が良しい。

(ロ)裏袖附け 前の袖附けの處を,20糎程縫ひ殘して置く,他は綿入羽織と同樣。但し,袖附け標より,•2糎程手前にて,絲留をすることは,表の場合と同樣。

(ハ) 袖口下を四つ留めにして,それより袂の角まで縫ふ。(ニ)袖附け止りを,七枚ともに絲留めをなし,袖下を縫ひ,袖形を整へ,表布の方に折りを返す。七つ留めの針の掛け方は,裏の前褄を一枚だけ殘し,左右ともに袖口を左に持ち,布の重なりたる順に針を通して止める。

(6)前襠附け　前褄を以て,前襠を挾み,裾口より四つ縫ひになし,表に折りをつけて引き返し,袖附けの縫ひ殘して,ある所を絎ける。

(7)前下り及び袖口に躾けをかける。但し,躾けは束躾けにする。

(8)仕上げ　注意(イ)絹布ならば,袖形及び裾口に眞綿を入れる。又,裾口には別布にても良い。(ロ)裏布幅狹く,裄丈の不足な時には,裏袖の口明きの方に,共布又は,別布を足したる後に,袖丈及び袖口布を附ける標をする。

絹布本裁ち女袷羽織

裁ち方及び積り方

綿布女綿入羽織に同じ。

標附け方

裏袖丈の詰め方,及び前下り衿の標附け方は,男袷羽織の時に同じ。(他は,綿布本裁ち綿入羽織と同じ)

縫ひ方　袷の着物と同じである。(但し,躾けは三目落しにする。)

(2)　胴接ぎ・前下り・衿附け等は,綿布男袷羽織に同じ。(但し胴接ぎの躾けは,縫ひ躾けにする。

(3)襠の附け方　(イ)後襠裾口より縫ひ始め,襠丈の止りまで四つ縫ひにし,此處にて一針絲留めをして,其の絲にて,後身八つ口を縫ふ。

(ロ)前襠附け　後襠附けと同じ裾口より縫ひ始め,襠丈の止りまで縫ひ,此處にて一針絲留めをして,前身八つ口を縫ふ。

(4)袖附け　(イ)表袖附け　袷着物と同じ,袖附け止りを,四つ止め

として,表袖を普通に附け,折りは袖の方に返す。

(ロ)裏袖附け　前袖附け　20•糎程手前まで縫ひ,絲留めをして,折りは袴の方に返して表に引き返し,先きに縫ひ殘したる處を絎け附ける。

絹布本裁ち女綿入羽織

胴接ぎの躾けを縫ひ躾けとなすのみにて,其の他は,綿布本裁ち女綿入羽織と異なる處はない。

四つ身綿入羽織

地質　本裁ち羽織に同じ。

普通仕立て上げ寸法　(着物の寸法により,凡そ次の如く增減する)

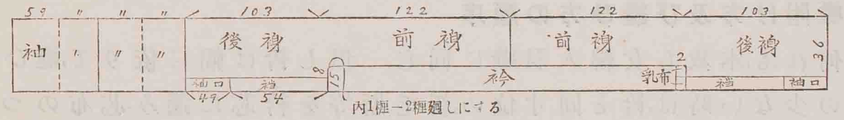
(1)袂袖　袖丈　同寸　袖口　同寸　袖附　•4糎增す　袖幅•8糎−1糎增す　身丈　着丈より11糎內外を減ずる。前幅　15糎−17糎　衿肩•4糎を增す　乳下り　27糎位　身八つ口2糎減ずる。　襠幅 上下2糎 一杯　後幅同寸　前下り3糎內外。

(2)元祿袖　袂袖の一種なれば,袖丈短かきのみにて,他の寸法の割り合ひは,凡て袂袖に同じ。但し,袖丸の標は,丈,幅共に,•8糎多くする。

(3)筒袖　袖丈　1糎增す　袖口明　1糎−1•5糎增す　袖附け•8糎增す　袖幅　同寸

○常幅の布を以て,四つ身綿入羽織表地の裁ち方,及び積り方

所要寸法　上り袖丈57糎　上り身丈76糎　前後の差19糎　繰り越し•8糎　前下り3糎　裾口折り返し27糎。



積り方公式　4(袖丈＋身丈)＋2前後の差＝表用布

同算式　(い) 57 ＋ 2 (上り袖丈 袖下縫代) ＝ 59 (裁ち切り袖丈)　(ろ) 76 ＋ 1 (上り身丈 三縫衿代) ＋ 27 (衿口折り返し) ＝ 104 (裁ち切り後丈)

(は) (59＋104×4＋19×2＝690

同裏地の裁ち方及び積り方，表地と同じ故略する。

積り方公式　8(上り袖丈＋上り身丈)＋總縫代－表用布＝裏用布

同　算　式　(57＋76)×8＋58•4－690＝432

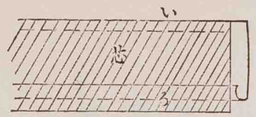
總縫ひ代	袖下縫代	2糎の8倍	16倍	58•4糎
	胴接ぎ代	2糎の8倍	16糎	
	三衿縫代	1糎の8倍	8糎	
	繰り越し	•糎の8倍	C•4糎	
	前下り及び縫代	3糎の4倍	I2糎	

注意　袖下縫代，及び，胴接ぎ代は，何れも，最小限を見積りたるもの故，實際に當つては適宜の餘裕を加へて裁つことが必要である。

標附け方及び縫ひ方の順序

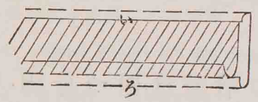
何れも，本裁ち女綿入羽織に同じ。但し衿は幅に依りて，縫ひ代の少ない時は，衿と同寸位の，新毛斯等を衿芯に選み，芯布のつれぬ様に注意して，衿附けの方に假綴ぢをなし置き，本裁ち女綿入羽織の時と同様に，袵とのつり合ひを取りて，衿附けをする。その折り方を示せば，次の如くである。

第一圖



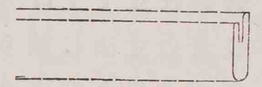
1. 表衿と芯布とを重ねて，衿附け(い)の方より凡そ1糎の所を躾糸で押へる。
2. 衿幅の二倍より•5糎減じ之に1•5糎加へたるもの(ろ)に折る。

第二圖



(い)を1•5糎内側に折る，芯布を(ろ)より1糎減じたるものに折る。

第三圖



次に(い)より•5糎減じて幅二つに折る。

又縫ひ代の多い時は大人物衿の折り方を應する。

三つ身綿入羽織

地質　本裁ち羽織に同じ。

普通仕立て上げ寸法

長着の寸法に據り,其の増減は,四つ身綿入について,述べた通りである,但し前下りは,2糎－2•5糎。

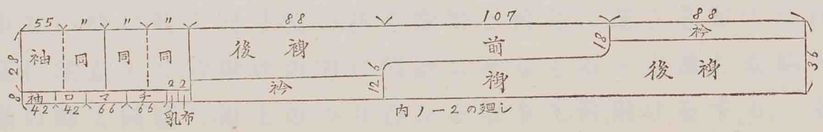
常幅の布を以て,三つ身綿入羽織の裁ち方及び積り方。

所要寸法

袖丈53糎　身丈68糎　裾口折り返し19糎　前後の差19糎

前下り2糎　繰り越し•8糎

両面常幅物にて,表地の裁ち方圖



積り方公式　上り身丈＋三衿縫代＋裾口折り返し＝裁ち切り後丈

裁ち切り後丈＋前後の差(此の中に繰り越し及び前下りの分も含まれてゐる)＝裁ち切り前丈

4袖丈＋3身丈＋前後の差＝用布

同算式

(い) 68（上り身丈）＋1（三縫衿代）＋19（裾口折り返し）＝88（裁ち切り後丈）　(ろ) 88（裁ち切り後丈）＋19（前後の差）＝107（裁ち切り前丈）

(は) 53（上り袖丈）＋2（袖下縫代）＝55（裁ち切り袖丈）　(に) 55（袖丈）×4＋88（後身丈）×3＋19（前後の差）＝503（用布）

同裏地の裁ち方及び積り方

裏地の積り方は,表地と同様故略す。但し,衿は不用なる故,地質に依りては,衿芯として用ふるも良し。

積り方公式　8上り袖丈＋6上り身丈＋總縫代－表用布＝裏用布

積り方算式　53×8＋68×6＋43•2－503＝372•2

總縫ひ代				
袖下縫代	2糎の8倍	16糎		
胴接ぎ代	2糎の6倍	12糎		
前下り及び縫代	3糎の2倍	6糎	43•2	
三つ衿縫代	1糎の6倍	6糎		
繰り越し	•8糎の4倍	3•2糎		

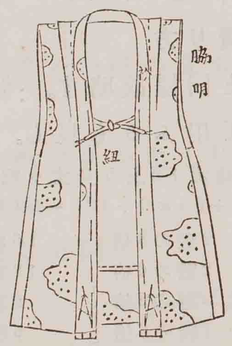
注意　胴接ぎ代及び袖下縫代を,2糎と見積りたるは,最小限であるから,實際の場合には,適宜の餘裕を加へて裁つことが必要である。

標附け方及び縫ひ方順序

何れも四つ身綿入羽織に同じ。

一つ身綿入袴羽織

各部の名稱　圖參照



地質　本裁羽織に同じ。

普通仕立て上げ寸法

身丈　57糎　紐附け　背より23糎　衿肩　4糎　襠幅　4糎（下一杯）

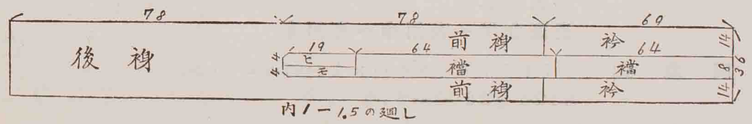
脇明き　23糎—25糎　肩繰越し（下る）・8糎内外　身幅　一抔　前下り・8糎—1糎

附言　前下りを附くると否とは,任意にてよろし,以下說く所は前下りを附けず。

○常幅の布を以て,一つ身綿入袴羽織の裁ち方及び積り方。

所要寸法

上り身丈　57糎　身の折り返し19糎　繰り越し・8糎　衿肩4糎



積り方公式　2(上り身丈＋三衿縫代＋繰り越し＋裾口折り返し)＝表袴用布

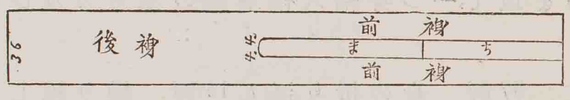
上り身丈＋三衿縫代＋2繰り越し＋衿肩廻し＋衿山接ぎ代＋

衿先縫代＝衿用布
表褙用布＋衿用布＝表用布

同　算　式　(57＋1＋·8＋19)×2＝155·6
57＋1＋·8×2＋4＋2＋4＝69·6
155·6＋659·6＝2252

同裏地の裁ち方及び積り方

裁　ち　方　圖



衿肩廻しは4糎の内1糎—1·5糎のまはしにする

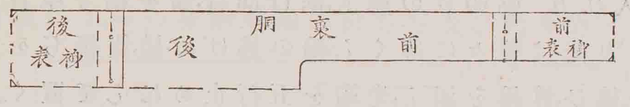
積り方公式　4(上り身丈＋三衿縫代)＋胴接ぎ代＋4繰り越し＋衿用布＝裏表合尺
裏表合尺－表用布＝裏用布

同　算　式　(57＋1)×4＋8＋·8×4＋69·6＝312·8
312·8－225·2＝87·6

標附け方

(1)褙　裏表とも,中表に幅を二つに折り,圖の如く,表の上に,裏を

重ね前後の丈を定める。



(イ)　胴接ぎ及び裾山標をすることは,三つ身羽織と同様。
(ロ)　肩山より二つに折り,肩山標及び脇明き,幅紐附けの標を附ける。
(2)襠　三つ身綿入羽織に同じ。但し,前後襠附けの曲りは,同様にても良しい。
(3)衿　(イ)衿山接ぎ標　(ロ)衿丈標

縫ひ方

前章に於ける,三つ身綿入羽織と異なる點

(イ)脇明きの縫ひ方　表は標より·6糎出し,裏は·6糎入れて,脇明け止りより2糎—2·5糎の間にて,褄形に縫ひ,脇明けの裏に綿を含

めて置く。

(ロ)綿の入れ方　脇明けの處も,裾口同様,端を稍々厚目に綿を入れ,それより先は順々に薄くし,綿の逃げぬ様,假綴ぢを施し置く。

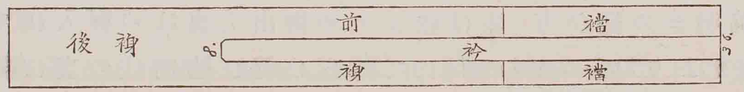
(ハ) 紐を縫ひ,眞綿を通し,先端を五行止めにして置く。又,袵に附くる時は,縫ひ目は裏の中央にする。

(ニ) 肩揚げの方法。肩幅の中央を山となし後を眞直にして脇明止りより 2糎程上り,前は 1糎程脇明けの方に寄りて斜に山となし,後より 1糎程少く縫ひ置く。

(ホ) 三衿附けから,2糎或は 3糎下つて背守縫ひをする。

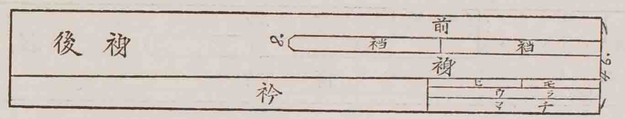
常幅,中幅,大幅の布を以て小裁中裁本裁羽織の表地各種裁ち方及び積り方の参考

○常幅の布を以て一つ身袴羽織の裁ち方,及び積り方。



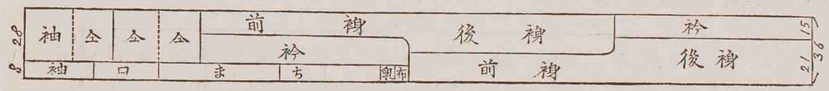
積り方公式　上り身丈＋三衿縫代－脇明け＋裾折り返し＝襠丈
2身丈＋前後の差＋襠丈＝用布

○中幅縮緬にて,一つ身袴羽織の裁ち方及び積り方



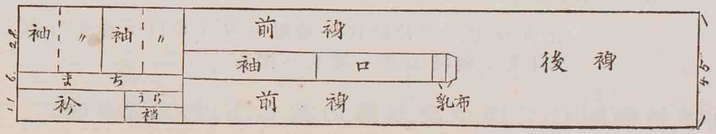
積り方公式　2身丈＋前後の差－用布

○片面常幅物にて三つ身羽織短袖の裁ち方及び積り方



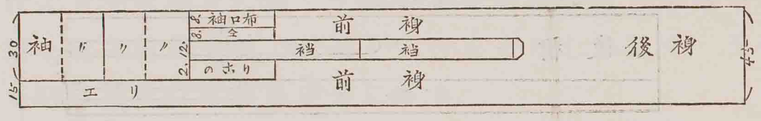
積り方公式　4袖丈＋3身丈＝用布

○中幅縮緬物にて三つ身羽織長袖の裁ち方及び積り方



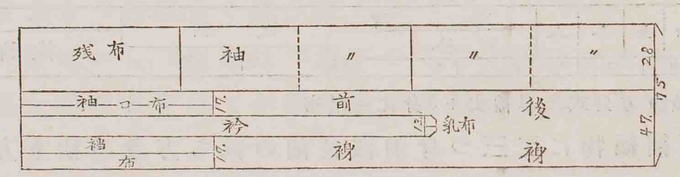
積り方公式　4袖丈＋2身丈＋前後の差＝用布

○片面物46糎幅にて,三つ身羽織元祿袖の裁ち方及び積り方



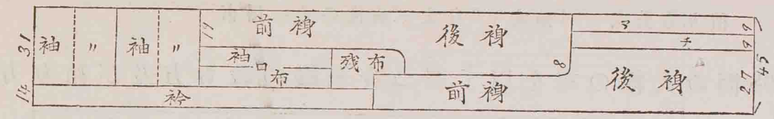
積り方公式　4袖丈＋2身丈＋袖口布丈＋前後の差＝用布

○76糎幅の布を以て三つ身羽織の裁ち方及び積り方



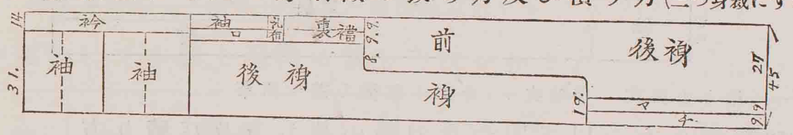
上り身丈＋三衿縫代－袖附－身八つ口＋裾折り返し＝襠丈
2身丈＋前後の差＋襠丈＝用布

○片面物46糎幅にて四つ身羽織の裁ち方及び積り方



積り方公式　4袖丈＋3身丈＋前後の差＝用布

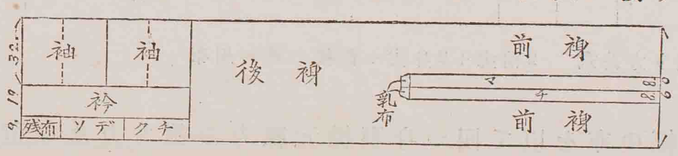
○兩面中幅物にて四つ身羽織の裁ち方及び積り方(三つ身裁にする)



積り方公式　4袖丈＋3身丈＋前後の差＝用布

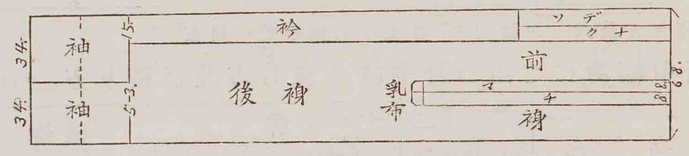
附言　短袖の場合には,裏襠を取らずに,衿を續けて長く取る。
尚ほ,衿丈不足の時は,襠丈が十分ある故に,それより取りて接ぎ合せる。

○60糎の大幅の布を以て四つ身羽織の裁ち方及び積り方



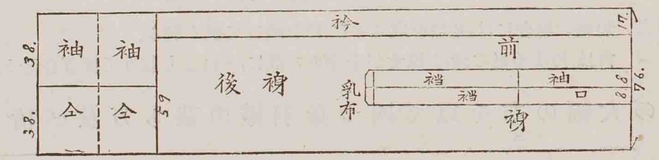
積り方公式　4袖丈＋2身丈＋前後の差＝用布

○68糎の大幅の布を以て,四つ身羽織の裁ち方及び積り方



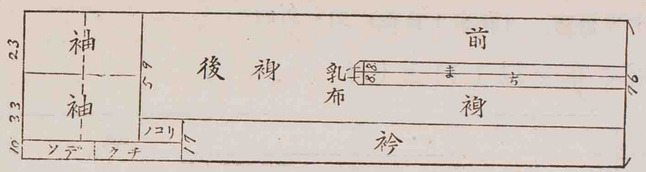
積り方公式　2袖丈＋2身丈＋前後の差＝用布

○76糎幅の布を以て,四つ身羽織の裁ち方及び積り方



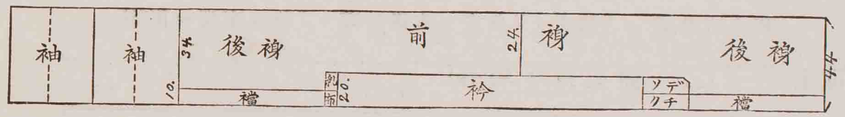
積り方公式　2袖丈＋2身丈＋前後の差＝用布

○76糎幅の布を以て四つ身羽織元祿方の裁ち方及び積り方



積り方公式　2袖丈＋2身丈＋前後の差＝用布

○中幅物にて,本裁ち羽織の裁ち方及び積り方

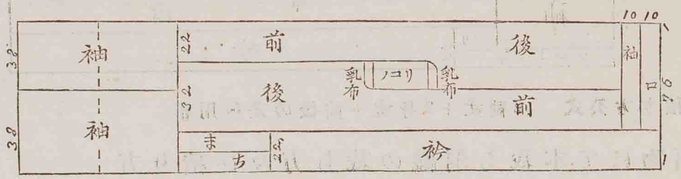


積り方公式　4(袖丈＋身丈)＋前後の差＝用布

○60糎幅の布を以て,本裁ち羽織の裁ち方及び積り方

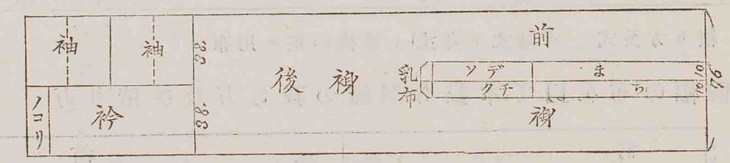
積り方公式　4身丈＋前後の差＝用布

○76糎幅の布を以て同上（一）



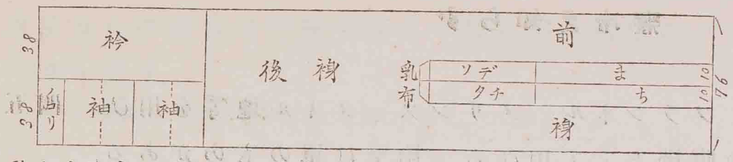
積り方公式　2袖丈＋2身丈＋前後の差＋2袖口布幅＝用布

同上　（二）（袖丈長き場合）



積り方公式　4袖丈＋2身丈＋前後の差＝用布

同上　（三）（袖丈長き場合）



積り方公式　2身丈＋衿用布＋前後の差＝用布

附言　紋所　紋の附け方には,一つ紋・三つ紋・五つ紋の三種ありて,その大さは,時の流行によりて異なれども,女物は3糎—3・5糎男物は4糎位が普通である,その位置を示せば大凡次の様である。

部分の名稱 ＼ 種類	本裁ち	四つ身	三つ身	一つ身
背紋下り	6糎－7糎（衿の裁目より）	5糎－6糎（同上）	5糎－6糎（同上）	4糎－5糎（同上）
袖紋下り	8糎（袖山より）	7糎　（同上）	5糎－6糎（同上）	5糎　内外
抱紋下り	15糎（身頃の山より）	13糎　（同上）	12糎　（同上）	10糎－11糎（同上）

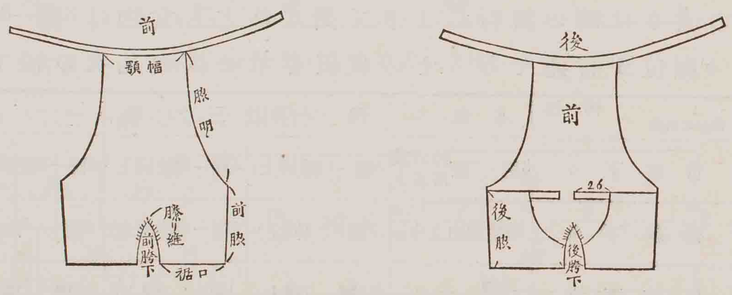
右の内紋背は,背線の中央,袖紋は,外袖幅の中央,抱紋は,大人物ならば,背線より10糎,即ち衿肩明きを除き,殘りの前幅の中央に附く,他も之に準ずる。

寢冷え知らず

用布

木綿　フランネル　メリンス　タオル地等を用ひ，四五才の小兒の腹掛として用ひる。袷又は單のものがある。

出來上り圖

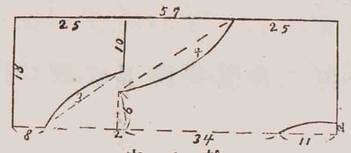


裁ち方

○常幅,長さ57糎の布で四五才の小兒の,紐附寢冷え知らずの裁

ち方。但袷なれば裏表各57糎を要する。他に幅2糎位のテープ又は紐113糎を要す。

常幅にて57糎の布を表裏二枚重ねて幅を二つに折る



巾ノ輪

積り方公式　前胯下＋前胯上＋後胯下＋裁ち合せ餘裕＝用布

積り方算式　11糎＋34糎＋8糎＋4糎＝57糎

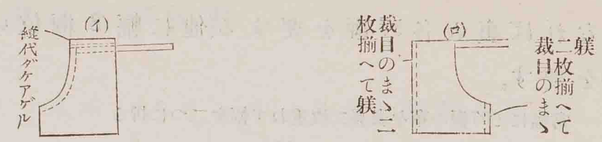
標附け方

各縫代は·8糎とる。

縫ひ方

(1)前後とも,裾口を表裏合せて縫ひ,折りは裏の方にかへす。

(2)後布に28糎の長さにテープを切つて,イ圖の様にテープを挾んで縫ふ。テープの先は,三つ折りにしてミシンをかける。



(3)ロ圖の樣に表を返し,後脇•後胯下は,裁ち目のまゝ,裏表揃へて躾けをかける。

(4)左右とも前脇で,後脇を挾んで,後脇丈の止りまで四つ縫ひにしてよく絲止めをなし,其絲を切らずに,前脇明けを,裏表二枚顎幅の止りまで縫ひあげる。

(5)前胯下で,後胯下を挾んで,後胯下止りまで,四つ縫ひになし,よく絲留めをして,それより上は裏表二枚よく揃へて縫ふ。左右ともできたらば表を返す。

(6)顎幅の所を,裏表二枚揃へて,裁ち目のまゝ躾けをかける。

(7)テープ57糎の中央と,顎幅の中央とを揃へて,裏表をテープで

挾んでミシン縫ひにし,テープの兩端は,三つ折にして,ミシンをかける。

紐の場合には,紐を表の方より縫ひつけて,裏でくける。

(8)胯下止りの4糎の間へ,丈夫にする爲に,滕り縫ひをなす。用ひる絲は,洗濯の時に,色の出ない樣な絲を用ひる方がよろし。

(9)仕上げをする。

涎掛

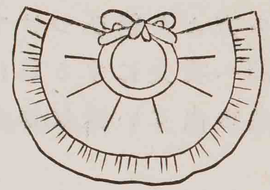
種類—日本形西洋形の二種あり。其形狀にも,種々ある。

地質(イ) 日本形＝縮緬•羽二重•絞り•メリンス等があつて,これは主に儀式•祝等の時に用ひる。

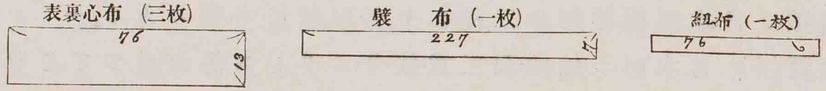
(ロ) 西洋形＝ネル•キヤラコ•タオル地等を用ひて,洗濯に耐へ得る樣な物で作る,即日本形に對して,實用的の物といふ事ができる。何れも,形及び裝飾は,自由であつて,其工夫によつては,どの樣にでも變化する事ができる。

日本形

扇形涎掛　出來上り圖。



裁ち方



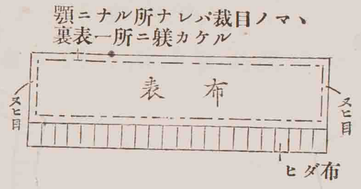
縫ひ方

(1) 襞布の兩端の裁ち目を,伏せ縫にし,これを幅二つに折る。

(2) それに2糎位の片襞をとつて76糎の丈に縮め,躾け絲で襞をとめる。

(3) 表布に晒又は新モスの心をとぢつける。

(4) 表裏布で,襞布を挾んで,三方を縫ひ,圖の樣に表を返して,縫ひ目及び頸廻りになる所に,躾けをかける。躾けをかけたならば,出



き上り圖の樣に中央に割襞を一つとつて,左右に三つ位の片襞をとつて,頸廻りを30糎内外に縮めて,襞を躾け絲で押へる。

(5) 紐を表の方につけて,眞綿を丸くなる位に心に入れ,2糎内外の太さにくけあげる。

(6) 紐の兩端を三ツ,又は五ツに絞つて絹絲でとめて,其絲を2糎位の長さに切る。

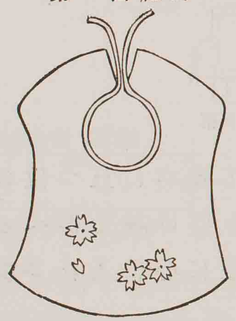
(7)鏝で仕上げをする。

西洋形

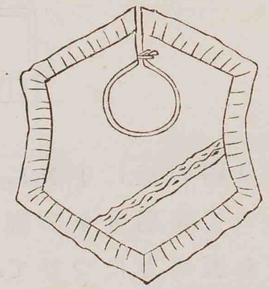
後の釦掛けの物と紐附きの物との二種がある。

出き上り圖。

第一圖紐掛



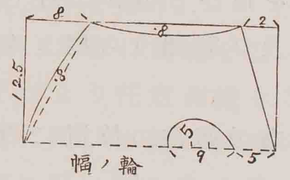
第二圖釦掛

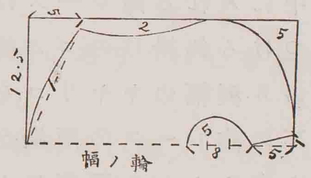


裁ち方

標準寸法
- 用布＝丈27糎から28糎内外幅25糎内外
- 後身＝5糎内外
- 顎明＝8糎より9糎内外
- 顎くり＝4糎より5糎内外

幅25糎丈28糎の用布を以て西洋形涎掛の裁ち方





(注意) 紐附けと釦附けとの異る所は,後身の5糎の所の裁ち方である,即釦掛けの方は,裁ち落さないが,紐附きの方は1糎裁ち落す。

縫ひ方

縫ひ方は,其出來上りによつて,異るも,大體は次の樣になす。

出來上り第一圖による縫ひ方順序。

表裏用布は,表はキヤリコ,裏はネルを用ひる,周圍の飾布は,レース又はキヤリコ布を用ひる,襞の深さによつて異るも,丈は周圍の倍から,2倍半あればよろしい。

身の中に入れる飾レースは,兩耳の物を用ひる方がよろしい。

後につける釦掛けのゴム紐を,6糎位及び顎廻りの明きをつゝむ,斜の3糎幅のキヤリコ,を要する。

(1)兩耳の飾レースの兩端を折つて,表布の適當の位置にのせて表から飾ミシンを兩側にかける。

(2)心布を表にとぢつける,但厚地の布ならば,心布は不要である。

(3)周圍の飾布に,片襞をとつて,表の周圍の丈に合せる。

(4)表裏用布で,この飾布をはさんで,·8糎の縫ひ代で,顎廻りのみを殘して,周圍全部を半返しで縫ふ,この時に釦掛けのゴム紐を

羽織の乳の樣に折つて,中にはさんで縫ふ。

(5)表を返して,周圍に飾ミシンりをかけ,斜布を顎の周圍に,表から·8糎の縫ひ代で,半返しに縫ひ附け,·8糎位の上りに,裏でまつる。(注意)斜布は,成るべく釣り加減につける。

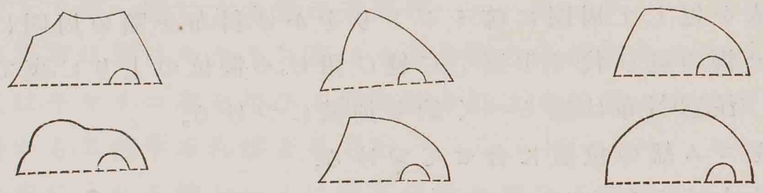
釦をゴム紐の位置に合せてつける。

(6)仕上げをなす。

(附言) 表布に刺繡をなす時には,薄地の布ならば心布を綴ぢつけそれより任意刺繡をなす方よろし。

刺繡に用ひる絲は,洗濯の時に,色の落ちない物,又は模樣は,形のるづれない樣な物を,撰ぶ事が大切である。

各種涎掛の原形



終

筒袖普通仕立て上げ寸法表

各部名稱＼類種	一ッ身	三ッ身	四ッ身
袖丈	21	24.6	24.6—26.5
袖口	11.4—13.2	13.2—15.1	15.1—17
袖附	15.1	17	17—18.2
袖幅	21	24.6—26.5	30.3

元祿袖普通仕立て上げ寸法表

各部名稱＼種類	一ッ身	三ッ身	四ッ身
袖丈	22.8内外	26.5—30.3	34.1内外
袖口	11.4—13.2	14.4	15
袖附	15	16.3	17—19
袖幅	21	24.6—26.5	30.3

メートル法による各種長著普通仕立て上げ寸法表

各部名稱＼種類	一つ身	三つ身	四つ身	本裁女物	本裁男物
袖丈	38—57	50—60	53—61	61内外	53
袖口	———	13.3—15	17—21	23—25	28,5—30
袖附	13—17	15—17	17—19	25	45.5人形7.5
袖幅	19内外	22.7—26.5	28,5—31	32.5	33.3—34
身丈	70—95	104.5内外	114内外	148内外	38.3
身八つ口	9.5	9.5	9.5	11.5—13	———
衿肩明	3 8	5内外	6—6.8	8.7	8.3
衽下	9,5	11.5—13	13—15	23	21
肩幅	いつぱい	いつぱい	25	30	32.3
後幅	いつぱい	いつぱい	25	28.5	30
前幅	いつぱい	いつぱい	いつぱい	23	25
抱幅	———	———	———	21内外	23内外
衿下	17—19	23—27	31—46	75.5	66.3
衽幅	11.5内外	いつぱい	いつぱい	15.2	15.2
相褄幅	衽幅—0.7	衽幅—0.7	衽幅—0.7	13.3	13 3
衿幅	2.7—3.5	3.8	4.6	紬衿5.7 廣衿11.4	5.7—6
裄	いつぱい	いつぱい	53—55	62.5	66.3
袍（衿	0.57	0.57	0.38—0 57	0.38	0.38
袍（綿入	1.2	0.76—1.2	0.76—1.2	0.76	0.76
紐附	25	27	28.5—31	———	———

各種襦袢普通仕立て上げ寸法表

各部名稱＼種類		一ツ身	三ツ身	四ツ身	本裁女物	本裁男物
袖丈	半袖	15.2内外	18.9内外	20.8内外	22.7	22.7
	長袖	38—57	50—60	53—61	61内外	52.3内外
袖口		廣袖	廣袖	廣袖	廣袖	廣袖
袖附		13	15—17	17—19	25	45
袖幅	半袖	半幅	半幅	半幅	半幅	半幅
	長袖	18.9内外	23—27	28—30	32	33—34
身丈	半襦袢	38	42—43	43	68	68
	長襦袢	———	———	———	133.内外	136内外
身八ツ口		7.6	7.6	9.5	11.4	———
馬乘リ		7.6	7.6	9.5	11.4	11.7
衿肩明		3.4	4.5—4.9	6.1—6.4	8.3	8.3
肩幅		いつぱい	いつぱい	いつぱい	30.3	32.2—33
後幅		いつぱい	いつぱい	いつぱい	28.4—30.3	30.3
前幅		いつぱい	いつぱい	いつぱい	25—26	25—26
抱幅		———	———	———	23内外	23内外
衿幅		2.3内外	3.03—4	4—4.5	長襦袢 稽口8 三ツ衿3	5—5.3
裄	半袖	いつぱい	いつぱい	いつぱい	いつぱい	いつぱい
	長袖	〃	〃	〃	63	66.3
袍		0.4	0.4	0.4	0.2—0.4	———
前下リ		———	———	———	2	———

375.5
To 86
昭和44年4月 日
資学 256
昭和39年7月2日
8076

大正十三年十一月卅日改版
大正十三年十二月五日發行

定價金貳圓五拾錢

東京市本郷區東竹町三十五番地
編輯兼發行者　東京裁縫女學校出版部
代表者　渡邊滋

東京市京橋區新富町三丁目二番地
印刷者　山下福太郎

東京市京橋區新富町三丁目二番地
印刷所　日新印刷株式會社

東京市本郷區東竹町三十五番地
發行所　東京裁縫女學校出版部

電話小石川 { 三七五八番 / 二二三九番
振替貯金口座東京一九八二〇番

375.5
C68
1
102066
上 2003116